

予 算 要 求 资 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：肥料対策費

事 業 名 農作物安全・安心システム推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 ぎふ清流G A P推進係 電話番号：058-272-1111(内4113)

E-mail : c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 1,099 千円 (前年度予算額： 600 千円)

<財源内訳>

| 区分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|-------|---------|---------|-----------|---------|-------|-------|-----|---------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 600 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 600 |
| 要求額 | 1,099 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,099 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県内の水田等農用地の土壌中カドミウム濃度の実態把握を行い、その結果を活用して、地域の農地土壤の性質に応じた地球温暖化対策を推進するとともに、県民に安全な農産物を供給する。

(2) 事業内容

- ①事業推進会議及び報告会の開催
- ②農用地土壤のカドミウムの分析

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10

(4) 類似事業の有無

食品製造・流通安全確保対策費（健康福祉部生活衛生課）

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|--------------------------|
| 旅費 | 253 | 事業推進会議及び報告会の開催、土壤の採取及び搬入 |
| 需用費 | 726 | 消耗品費（事務・分析） |
| 役務費 | 120 | 通信運搬費 |
| 合計 | 1,099 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 岐阜県食品安全基本条例 第20条(基本計画の策定)

岐阜県食品安全行動基本計画【第5期】(R6～R10)

- 食品等の安全性の確保

- 監視指導・検査の推進
- 環境汚染物質・環境因子対策

【目指す方向性】農畜水産物及び環境中（大気、河川、土壤等）に含まれる環境汚染物質の実態を把握し、県内で生産される食品の安全性を確認します。

(2) 国・他県の状況

- 令和6年産の国産米において、食品衛生法に基づき定められた基準値を超えるカドミウムが検出され、自主回収を行う事案が発生した。(R7.4 秋田県)
- 国では、コメに含まれるカドミウム及びヒ素の濃度を低減するため実施指針を策定し、土壤中のカドミウム濃度が高い地域では湛水管理を、土壤中のヒ素濃度が高い地域では落水管理を推進している。
- 農地土壤に係る地球温暖化対策として、国は、「中干し期間の延長等による水田からのメタンの削減」の取組を推進している。
- 三重県では、土壤抽出液のカドミウム濃度と玄米カドミウム濃度の関係を調査し、コメのカドミウム吸収抑制対策のための研究を行っている。

(3) 後年度の財政負担

令和8年度から令和10年度までの3年間で、県内を網羅した実態把握を行う。

今後の財源の動向：一般財源

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

県民に安全な農産物を供給するための事業であり、県が事業を行うことが妥当。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

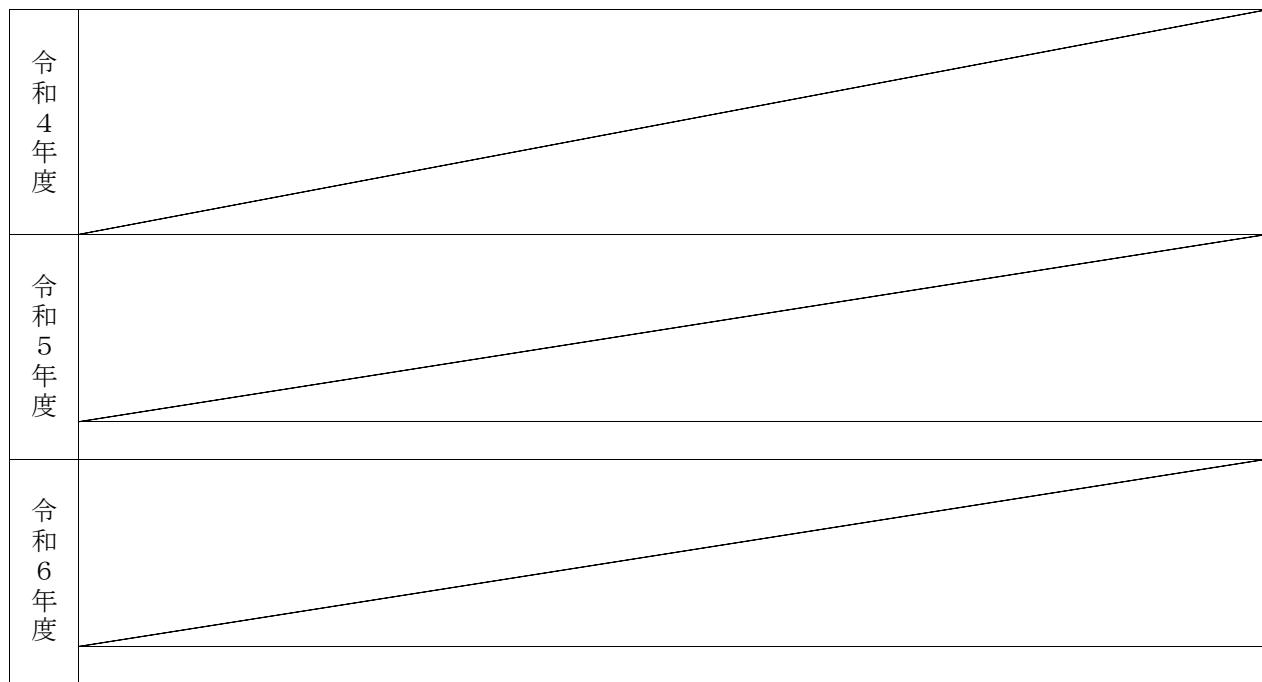
県内の水田等農地の土壤中カドミウム濃度の実態把握を行い、その結果を活用して、地域の土壤の性質に応じた地球温暖化対策を推進するとともに、県民に安全な農産物を供給する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R7) | R8年度 目標 | R9年度 目標 | R10年度 目標 | 終期目標 (R10) | 達成率 |
|-------------------------|---------------|------------|------------|-------------|---------------|-----|
| 農地の土壤中カドミウム濃度の実態調査数（累計） | 0 | 150 | 300 | 450 | 450 | |

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)



2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

| | |
|---|--|
| (評価) 3 | 県内の農用地の土壤中カドミウム濃度の実態把握により、新たな取組みを開始する前に、土壤の状況に応じた栽培方法の選定を行うことが可能となり、県民に安全な農産物を供給するための必要性は高い。 |
| ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) | |
| 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) | |
| ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) | |
| 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている | |
| (評価) | |

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | 【〇〇課】 |
| 組み合わせて実施する理由や期待する効果 など | |